

4 都市づくりの課題

「生きがいと魅力ある 住みよい都市 姫路」の実現に向けて、社会経済情勢の変化や市民アンケートの結果を踏まえた本市における都市づくりの課題を、次の6つの視点ごとに整理します。

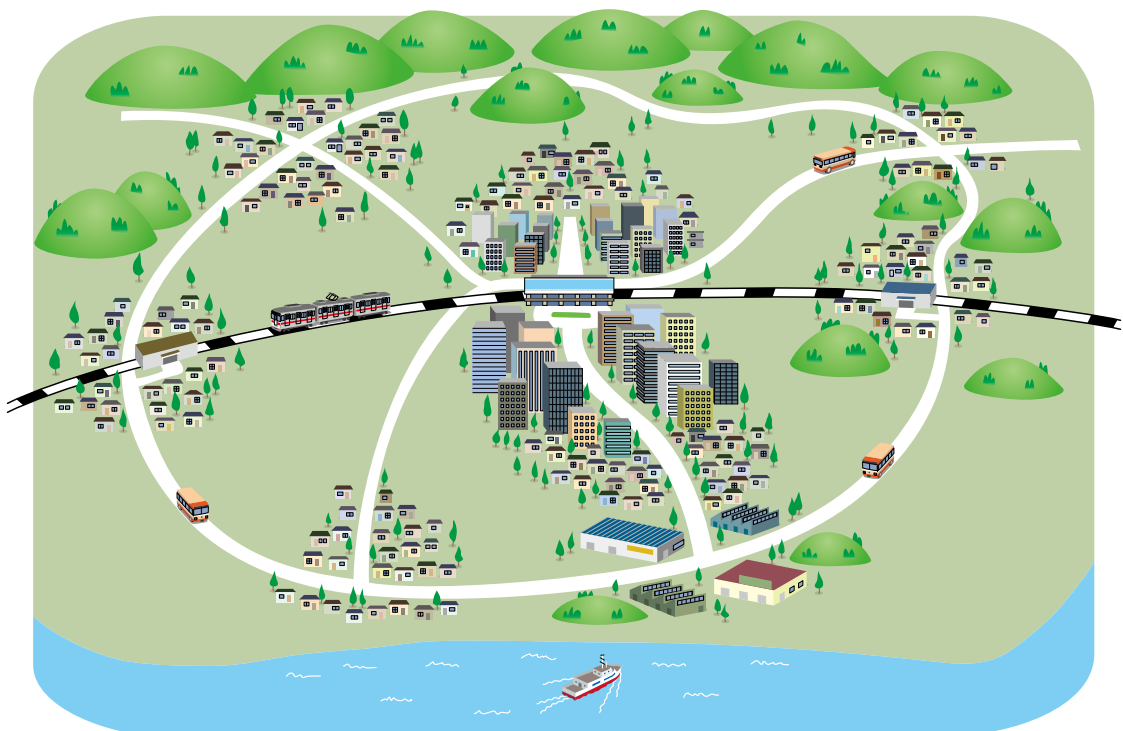
視点1 姫路らしいコンパクトな市街地の形成

多くの都市が目指すべき基本的方向として集約型都市構造の構築が提唱されている中で、本市では「多核連携型都市構造」の構築を目指しています。こうした中で、特に、日常生活の利便性の向上や地域核等における日常生活に必要な機能の充実が求められているなど、多核連携型都市構造の実現に向けては、都心部における高次都市機能の集積や地域核等における施設の適正な立地とあわせて、都心部や地域核等への移動利便性を高める必要があります。

また、市街化区域内に農地が多く残っている状況を踏まえた住宅開発の適正な誘導や過去に整備した都市施設等の老朽化が進展していることに対し、その維持・更新費を抑制し、有効活用するための的確な維持管理とあわせて、長期的な視点に立った適切な都市計画施設の見直しが必要です。

課題

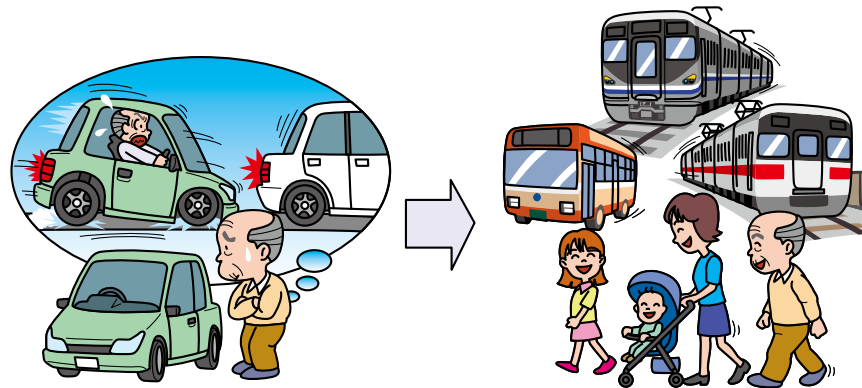
- 都心部における高次都市機能の集積
- 地域核等における交通結節機能の充実
- 立地適正化計画の検討
- 市街化区域内農地の宅地化と利用
- 都市施設等の的確な維持管理
- 長期的な視点に立った都市計画施設の適切な見直し



視点2 人口減少・超高齢社会への適応

持続可能な都市を構築していくためには、人口の現状維持が基本的な課題であるため、既存の都市施設等を活用しつつ、移動の少ないまちなか居住やゆとりある郊外居住など、多様な住まいが選択できる環境を整備する必要があります。

居住地から日常生活に欠くことのできない施設への移動は、本市では、多くの市民が自家用自動車に依存しています。高齢者等が自家用自動車に過度に依存することなく、住み慣れた地域で安心して住み続けることができる環境を整えるため、公共交通の維持・充実とあわせて、市街化調整区域においては地域に必要な一定の建築を許容するなど、地域の実情に応じた土地利用の誘導が必要です。

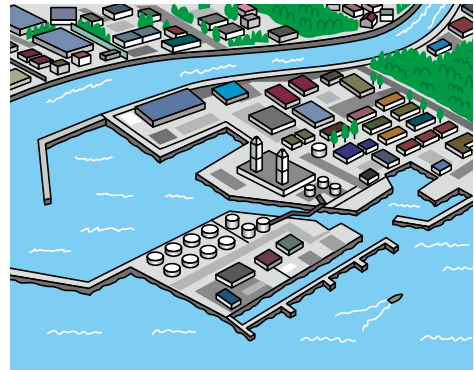


課題

- 多様な住まいが選択でき、生涯にわたり心身ともに健康でいきいきと活躍できる環境づくり
- 公共交通の維持・充実
- 市街化調整区域における地域の実情に応じた土地利用の誘導

視点3 創造的ものづくりのまち姫路の復権

本市の臨海部には鉄鋼、化学等の素材型産業を主体とした大規模な工場群が形成され、内陸部では、中国縦貫自動車道や播但連絡道路沿いの工業団地を中心に、電気機械、一般機械等の多彩な企業が立地しています。また、皮革、鎖等の特色ある地場産業や仏壇等の城下町の伝統産業が営まれています。多様なものづくり産業は、歴史・文化と並ぶ姫路らしさの象徴であり、経済の活性化と雇用創出に大きく寄与しています。



一方で、海外生産を含むグローバル化の進展や事業再編など、製造業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。市内産業の停滞や雇用環境の悪化を防止し、市民の働く場所を維持するため、魅力ある産業基盤の整備や環境づくりに取り組む必要があります。

課題

- 既存企業の内発的発展の促進
- 企業立地の適切な誘導
- 物流を支える幹線道路網の充実

視点4 地域資源を生かしたまちづくり

本市は、世界文化遺産姫路城に加えて、重要文化財に指定されている神社・寺院等の建造物、国指定史跡等の貴重な文化財を多く有しているほか、旧街道等の古道沿いには城下町、宿場町等の面影が残っています。この多様な歴史と文化は、町並みや景観形成等にも生かされ、観光資源としての役割も果たしています。

そのため、地域の歴史・文化と景観を大切にしたまちづくりを展開していくとともに、地域資源の活用による特色ある地域づくりが求められています。



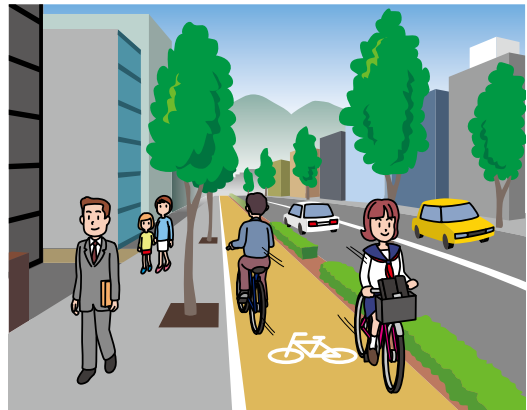
課題

- 景観計画制度を活用した歴史的な町並み景観の保全・創出
- 地域資源の活用による特色ある地域づくり

視点5 環境にやさしいまちづくり

本市には森林、農地が多く占める地域もあり、無秩序な市街地の拡大を抑制して、適正な土地利用を誘導することで、森林が持つ水源かん養機能や二酸化炭素吸収機能等が維持されます。また、まちなかでは、歩いて暮らせるまちづくりなど、二酸化炭素の排出量を削減することで、環境負荷が低減されます。

その中で、自転車は近年、環境負荷が少なく健康に良い交通手段として注目されています。特に本市は、姫路平野の広がる平坦な土地柄に加え温暖で降雨が少ないなど、自転車が利用しやすい環境にあります。環境負荷の低減に向けた取組として、歩行者・公共交通を優先するまちづくりや安全で快適な自転車利用環境の創出に取り組む必要があります。



課題

- 農地・森林の適切な保全と無秩序な市街化の防止
- 歩行者・公共交通を優先するまちづくり
- 安全で快適な自転車利用環境の創出

視点6 減災の視点を取り入れた安全・安心の確保

津波来襲の恐れがある南海トラフ地震や局地的な集中豪雨等による災害リスクの高まりに対応するため、減災の視点を取り入れた総合的な治水対策や津波避難対策等が必要です。

特に、災害時における安全な避難の確保に向けた総合的な取組が求められており、避難場所や避難路の確保、狭あいな生活道路の改善、建築物の耐震化、老朽化した建築物や空き家の増加への対応、さらには災害時における帰宅困難者への対応など、地域ぐるみでの防災・減災対策に取り組む必要があります。

土地の高度利用を進めてきた中心市街地等では、耐震性にも不安のある老朽中高層建築物が増加しつつあるため、その円滑な建替え等の促進が必要です。



課題

- 総合治水対策や津波避難対策の推進
- 地域ぐるみでの防災・減災対策の推進
- 老朽化した建築物や空き家の増加への対応